

## 研究室だより

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

### 4 月

- 内山加奈枝氏は、4 月、教授に就任。
- 川端康雄氏は、4 月、日本女子大学理事に就任。
- 佐藤和哉氏は、4 月、文学部長に就任。
- 高梨博子教授は、4 月、日本女子大学生涯学習センターリカレント教育課程の主任に就任。
- 押田晃子氏は、4 月、助教に就任。
- 高梨博子教授は、4 月、日本英語学会の評議員に就任。
- 川端康雄教授は、4 月、『増補 オーウェルのマザー・グース——歌の力、語りの力』（岩波現代文庫）を岩波書店より刊行。
- 川端康雄教授は、4 月、「新訳『1984』を読む」を『研究社ノート』に執筆。
- アン・スレイター教授は、4 月 30 日、“Lessons from My College Son, While We Were Home Together”を *The Washington Post* に執筆。
- 藤永康政教授は、4 月、「公民権運動の急進化と冷戦公民権——黒人自由闘争の歴史 (2)」を『思想』第 1164 号に執筆。
- 内山加奈枝教授は、4 月 17 日、日本比較文学会東京支部 4 月例会（オンライン開催）にて「文化としての少女の病——*Girl, Interrupted* にみられるフロイト受容」を口頭発表。

### 5 月

- 佐藤和哉教授は、5 月、日本英文学会関東支部の副支部長に就任。
- 佐藤和哉教授は、5 月、日本英文学会の評議員に就任。
- 川端康雄教授は、5 月、「オーウェルとヴィクトリア朝的なるもの」を『日本ヴィクトリア朝文化研究学会 Newsletter』第 20 号に執筆。
- 川端康雄教授は、5 月、『ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読む——ディストピアからポスト・トゥルースまで』（秦邦生編、共著）を水声社より刊行。「日本における『一九八四年』の初期受容」および「コラム：「ニュースピーク」と「ベイシック英語」」を寄稿。
- 高梨博子教授は、5 月 9 日、日本英語学会 第 14 回国際春季フォーラム（於関西大学 オンライン開催）ポスター発表にて司会を務める。
- 松森晶子教授は、5 月 28 日、国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」2021 年度前期発表会第 6 回（オンライン開催）にて「沖縄語首里方言の音節構造の変化と祖語の母音の音価推定」を口頭発表。

### 6 月

- 川端康雄教授は、6 月、「アーツ・アンド・クラフツ展とケルムスコット・ブ

レス版『ゴシック建築』を『日本女子大学図書館だより』第171号に執筆。

- アン・スレイター教授は、6月、“How Awakening to Our Ancestors’ Stories Fuels the Creative Process”を *Narrative Healing* に執筆。
- 藤永康政教授は、6月、『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房）を共著にて出版。
- 土屋智子准教授は、6月、『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房）を共著にて出版。
- 奥畑豊講師は、6月、『ハロルド・ピンター：不条理演劇と記憶の政治学』（彩流社）を出版。
- アン・スレイター教授は、6月22日、セミナー *Narrative Healing Live*（オンライン開催）にて“Listening to Our Ancestors”を口頭発表。
- 藤井洋子教授は、6月29日、第17回国際語用論学会（於：ヴィンタートゥール・スイス連邦 & オンライン開催）のパネル“Emancipatory Pragmatics: Reconsidering Context in Terms of the Emergence and Dissolution of Distinct Categories in Communicative Interaction”にて“Rethinking reversed word order in Japanese conversation from the perspective of the pragmatics of *ba*”を発表。
- アン・スレイター教授は、6月30日、American Writers Museum’s “Nation of Writers”（podcast）にて“Reinaldo Arenas”を講演。

## 7月

- アン・スレイター教授は、7月、エッセイ“Fata Morgana: Reinaldo Arenas, Writers in Exile, and a Visit to the Havana of 1987”を *Nowhere Magazine* に再掲。
- 早野薫准教授は、7月、「保護者－保育士間会話における報告連鎖」を田中廣明他（編）『動的語用論の構築へ向けて』第3巻（開拓社）に執筆。
- 奥畑豊講師は、7月、「名著60 ウィリアム・ゴールディング『蠅の王』黒原敏行訳、ハヤカワ epi 文庫、2017年」を読売新聞（2021年7月11日）に執筆。
- 高梨博子教授は、7月1日、The 17th International Pragmatics Conference（於：Winterthur, Switzerland、オンライン開催）にて“Poetic Performance in Walking Tour Discourse”を口頭発表。
- 早野薫准教授は、7月1日、第17回国際語用論学会（オンライン開催）にて、パネル“Talking to and about children: Studies of child-centered interaction across contexts”を企画し、“Address to the child as an interactional resource: “The management of (non)seriousness in talk between nursery school teachers and parents”を口頭発表。
- アン・スレイター教授は、7月2日、Be Here Now Network’s “Mindrolling”（podcast）にて“The Wisdom of the Dead with Ann Tashi Slater”を講演。
- 馬場聡准教授は、7月24日、多民族研究学会第35回全国大会（オンライン）にて司会をつとめる。
- 西貝真紀助教は、7月24日、多民族研究学会第35回全国大会（オンライン

開催)にて、「ビート作家と日本——冷戦期アメリカにおける日本のイメージ再構築の側面」を口頭発表。

## 8月

- 馬場聡准教授は、8月、多民族研究学会の企画副委員長に就任。
- アン・スレイター教授は、8月、“A Journey Between Lives”を *Tricycle: The Buddhist Review*, Summer に執筆。
- 奥畑豊講師は、8月、『ビッグ・ブラザーの世紀：英語圏における独裁者小説の系譜学（日本女子大学叢書24）』（小鳥遊書房）を出版。
- ダグラス・フォースター教授は、8月14日、Extensive Reading Around the World 2021（オンライン開催）にて“A 10-Point Guide for Big Easy Reading Programs”を共同発表。
- アン・スレイター教授は、8月25日、*Tricycle: The Buddhist Review's* “Life As It Is” (podcast) にて“Every Moment Is a Bardo”を講演。

## 9月

- 藤井洋子教授は、9月17日、「親族の関係性、社会に拡張」の記事が『声の十字路「他人から「母さん」に違和感」』（秋田魁新報社）に掲載される（依頼）。
- 井上亜紗助教は、9月4日、第33回日本ソール・ベロー協会大会特別講演（オンライン開催）にて司会をつとめる。
- 高梨博子教授は、9月14日、The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies（於広島大学 オンライン開催）にて“The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara”を口頭発表。
- 川端康雄教授は、9月18日、19世紀イギリス文学合同研究会準備大会（リモート開催）シンポジウム「現代を生きる19世紀イギリスの作家たち」にて司会・講師を務め、「オスカー・ワイルドとアーツ・アンド・クラフツ運動」を発表。

## 10月

- 川端康雄教授は、10月、「書評 *Louisa Waterford and John Ruskin: 'For You Have Not Falsely Praised'* by Caroline Ings-Chambers」を『ラスキン文庫たより』第82号に執筆。
- アン・スレイター教授は、10月、“The Myth of Moving On: An Interview with Suleika Jaouad”を *Tricycle: The Buddhist Review* Winter に執筆。
- 藤永康政教授は、10月、「ロバート・F・ウィリアムスの抵抗——黒人自由闘争の歴史(3)」を『思想』第1170号に執筆。
- 大学院英文学専攻修士論文中間発表会が、10月14日、開催された。博士課程前期3年次1名が修士論文中間発表を行った。
- 早野薫准教授は、10月16日、第19回 対照言語行動学研究会（オンライン開

催)にて「会話における『認識性』をめぐる英語の事例分析」を招待発表。

- 高梨博子教授は、10月23日、日本国際観光学会第25回全国大会(於神奈川県 オンライン開催)にて「渋沢栄一にみる異文化接触とコミュニケーション」を口頭発表。
- 坂田薫子教授は、10月30日、日本ハーディ協会第64回大会(オンライン開催)にて研究発表の司会をつとめる。

## 11月

- 川端康雄教授は、11月、「書評・山口恵里子編『エロスとタナトス、あるいは愉悦と戦慄』」を『図書新聞』3519号に執筆。
- 川端康雄教授は、11月、「唯美主義運動の「大義」——ウォルター・ハミルトン著『英国の唯美主義運動』(1882年)をめぐる」を『ヴィクトリア文化研究』第19号に執筆。
- 川端康雄教授は、11月、「ケルムスコット・プレスの16折判」を『日本女子大学図書館だより』第172号に執筆。
- 高梨博子教授は、11月、“Emergent Stance in Walking Tour Discourse in Nara: The Intersubjective Construction of Interculturality”を *Language and Intercultural Communication in Tourism: Critical Perspectives* (Routledge) に執筆。
- 藤永康政教授は、11月、「白人の救世主物語——エボニーとアイヴォリーの物語 アメリカ大衆文化のダイナミズム(一)」を『ミネルヴァ通信・究』第128号に執筆。
- 奥畑豊講師は、11月、J・キース・ヴィンセント著『『仮面の告白』における死産するゲイ・アイデンティティ』を『三島由紀夫小百科』(水声社)に翻訳執筆。
- 高梨博子教授は、11月14日、日本英語学会第39回大会(於山口大学 オンライン開催)特別講演にて司会を務める。

## 12月

- 川端康雄教授は、12月、「巻頭言」、「《特集》ワイルド研究者としての本間久雄 緒言」および『『生活の藝術化』から『英国近世唯美主義の研究』へ——本間久雄のウィリアム・モリス研究を中心に』を『オスカー・ワイルド研究』第20号に執筆。
- 高梨博子教授は、12月、「外国人旅行者へのガイドツアーや応接におけるユーモアのある対話の分析——ホストとゲストの遊び心に着目して」を『第36回日本観光研究学会全国大会学術論文集』に共著にて執筆。
- 藤永康政教授は、12月、「黒人のレジスタンス——エボニーとアイヴォリーの物語 アメリカ大衆文化のダイナミズム(一)」『ミネルヴァ通信・究』第129号に執筆。
- 馬場聡准教授は、12月、「米国のシンデレラ」を『三田評論』12月号に執筆。
- 鈴木喜和准教授は、12月4日、日本シェリー研究センター第30回大会(オ

ンライン)の招待ワークショップにて「キーツの初期ソネットを読む——「音楽」の諸相と射程」を口頭発表。

- 早野薫准教授は、12月4日、第4回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会 (オンライン開催) にて “Negotiation of the degree of engagement: Conversation analysis of a college English learning activity” を口頭発表。
- 大学院英文学専攻課程協議会第53回研究発表会が、12月4日、上智大学にて開催された (オンライン開催)。本学大学院より、博士課程前期3年内野青葉が発表。アドバイザーとして、松森晶子教授、藤永康政教授が出席。
- 高梨博子教授は、12月5日、第36回日本観光研究学会全国大会 (於立教大学 オンライン開催) にて「外国人旅行者へのガイドツアーや応接におけるユーモアのある対話の分析——ホストとゲストの遊び心に着目して」を口頭発表。
- アン・スレイター教授は、12月7日、Princeton Arts Alumni のパネルディスカッション “On Craft and Process” に参加。
- 奥畑豊講師は、12月9日、文学座12月アトリエの会公演「Hello ～ハロルド・ピンター作品6選～」 (於文学座アトリエ) にてアフタートークに登壇。
- 井上亜紗助教は、12月18日、多民族研究学会 第36回全国大会 (オンライン開催) にて『『ラヴェルスタイン』とアメリカにおけるユダヤ性の問題』を口頭発表。

## 1月

- 佐藤和哉教授は、1月、*Robinson Crusoe in Asia* (Palgrave Macmillan) を共著にて出版。
- 藤井洋子教授は、1月、「シリーズ 文化と言語使用」第3巻『場と言語・コミュニケーション』 (ひつじ書房) を監修・出版。
- アン・スレイター教授は、1月、“A Journey Between Lives” を *Eastern Horizon Buddhist journal* に再掲。
- ピーター・ロビンソン准教授は、1月、Competing Imperialisms Research Network (University of Belfast, オンライン開催) にて “Cogs in the Machine of Empire: A visual journey through Shigeru’s pictorial imagination” の企画・運営をつとめる。

## 2月

- 大場昌子教授は、2月、「シカゴと移民——「銀の皿」にみる多文化共生の地理的状况」を『ソール・ベロー——都市空間と文学』 (彩流社) に執筆。
- 佐藤和哉教授は、2月、『〈読む〉という冒険』 (岩波書店) を出版。
- アン・スレイター教授は、2月、“My Father, Montaigne, and the Art of Living” を *Princeton Alumni Weekly* に再掲。
- 松森晶子教授は、2月「琉球祖語の韻律体系について」を『プロソディー研究の新展開』 (開拓社) に共著にて執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、2月、“Selling Books on the ‘Orient’: British

and American Book Advertising, 1900–1939”を *BKAS Essay Shorts*, no. 7 に執筆。

- ピーター・ロビンソン准教授は、2月、“Cultivating Readers: Advertising the Horticultural and Gardening Press, 1880–1920”を *BKAS Essay Shorts*, no. 8 に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、2月、“Selling Books on the ‘Orient’: British and American Book Advertising, 1900–1939”を *BKAS Essay Shorts*, no. 7 に執筆。
- 井上亜紗助教は、2月、「重ね書きされる〈アメリカの風景〉——「未来の父親」と『この日をつかめ』のニューヨーク」を『ソール・ペロー——都市空間と文学』（彩流社）に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、2月、Competing Imperialism Research Network (University of Belfast、オンライン開催)にて“Glimpses of Empire: the unpublished Asian travel writings of Philip Mason Sears”の企画・運営をつとめる。

### 3月

- 内山加奈枝教授は、3月、「ボール・オースターの描く多民族社会における他者との共生——『ミスター・ヴァーティゴ』と『スモーク』を中心に」を『現代アメリカ社会のレイシズム』（彩流社）に共著にて執筆。
- 内山加奈枝教授は、3月、「「少女」が病む文化——翻案映画『17歳のカルテ』と精神療法の民主化」を『英米文学研究』第57号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「ケルムスコット・プレス版『フロワサル年代記』の見本刷り2種」を『日本女子大学図書館だより』第173号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「壽岳文章の抵抗——『滴る雫』の柔軟心」を『向日葵』第5号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』試訳と注釈(3)」を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第71号に発表。
- 坂田薫子教授は、3月、「「透明な批評」で読むアガサ・クリスティー——ミス・マーブルの履歴書(1)年齢」を『英米文学研究』第57号に執筆。
- 高梨博子教授は、3月、「20世紀初頭の田中孝子の足跡——シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、洪沢栄一との関連から」を『総合研究所紀要』第24号に執筆。
- 高梨博子教授は、3月、“Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara”を *Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies*, Vol. 14 に共著にて執筆。
- 松森晶子教授は、3月「沖縄語首里方言の音節構造の変化と北琉球祖語の母音の音価推定」を『日本女子大学紀要 文学部』第71号に執筆。
- 鈴木喜和准教授は、3月、書評「山内正一著『メランコリーの詩学——キーツとオード』」を『イギリス・ロマン派研究』第46号に執筆。
- 土屋智子准教授は、3月、「次世代が語る日本人『戦争花嫁』移民」を『日本女子大学紀要 文学部』第71号に執筆。

- 馬場聡准教授は、3月、「ダム建設事業とコロンビア川流域表象史」を『英米文化』第52号に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、3月、“Travel Writing as Historiography: Philip Mason Sears’s Unpublished Travel Writings”を『日本女子大学紀要 文学部』第71号に執筆。
- 早野薫准教授は、3月、“Negotiation of the Degree of Engagement: Conversation Analysis of a College English Learning Activity”をJAAL in JACET Proceedings, Vo. 4に執筆。
- 奥畑豊講師は、3月、“The Deception of Spiritualism: Reading J. G. Ballard’s *Empire of the Sun* through Bushido”を『比較文学・文化論集』第39号に執筆。
- 奥畑豊講師は、3月、「ドストエフスキー、不条理、ポストモダン——ミュリエル・スパーク『運転席』における人間の主体性の問題」を『英米文学研究』第57号に執筆。
- 井上亜紗助教は、3月、「ソール・ペローのブレイクスルー——レイシズムを超える『オーギー・マーチの冒険』のケアの倫理」を『現代アメリカ社会のレイシズム』（彩流社）に執筆。
- 井上亜紗助教は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』訳と注釈(3)」を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第71号に発表。
- 押田昊子助教は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』訳と注釈(3)」を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第71号に発表。
- 花角聡美助教は、3月、「ジョン・ラスキンとJ. P. フォーンソーブ——『フォールス・クラヴィゲラ』の索引をめぐる」を『英米文学研究』第57号に執筆。
- 花角聡美助教は、3月、“John Ruskin’s Idealised Vision of Goodness”を『日本女子大学大学院文学研究科紀要』第28号に執筆。
- 花角聡美助教は、3月、「ウォルター・ハミルトン『英国の唯美主義運動』訳と注釈(3)」を共訳、共著にて『日本女子大学紀要 文学部』第71号に発表。
- 高梨博子教授は、3月9日、Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2022（オンライン開催）Morning Sessionにて司会を務める。
- 高梨博子教授は、3月9日、「相互行為における発話末の「～たりして」：遊びのスタンス標識としての general extender」をSymposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2022（オンライン開催）にて口頭発表。
- 奥畑豊講師は、3月21日、明治学院大学言語文化研究所シンポジウム（オンライン開催）にて「核表象のピクチャレスク性を巡って——『渚にて』と二つの映画アダプテーション」を招待発表。
- 坂田薫子教授は、3月25日、「イギリス文学入門——ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』を読む」をNHKセンターのオンライン講座にて講演。
- 花角聡美助教は、3月、退職。